

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	北海道大学	整理番号	F01
プログラム名称	One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	長谷川 晃	プログラムコーディネーター	堀内 基広

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、One Health の理念を基にネットワークを拡大し、インターンシップ及び海外実践疫学演習／共同研究演習、学生と若手教員が共同企画運営を行う国際シンポジウム、オーダメイド英語教育等、多くのきめ細かな施策が順次講じられている。また、人獣共通感染症対策専門家認定試験等を含む特色ある4年間の教育プログラムが構築され、学生の俯瞰力、企画力、自主性の涵養がなされたと評価できる。一方で、「One Health に貢献する獣医科学」の研究成果の内容が明確とは言い難く、研究時間が削減されるという一部学生の不満は、本プログラムの趣旨が十分に理解されていなかったためと考えられ、教員を含めて趣旨の理解の徹底に向けた更なる努力が期待される。また、産業界との連携が不足している点についても、今後一層の努力が期待される。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、キャリアパス支援体制としてキャリアパスセミナーの実施や、e-ポートフォリオを用いた修了者及び学生相互のネットワーク体制を構築し、多彩な分野へのスムーズな人材輩出が進められており、実績に裏付けられた完成度の高いプログラムに達していると評価できる。また、海外実践疫学演習／共同研究演習及び海外の多様なインターンシップ先の充実は、国際・人的ネットワークの構築に有効であり、グローバルリーダー育成に資する優れた取組として評価できる。実際、修了者の就職先には、グローバルリーダーの能力を発揮できる国際的な機関も含まれている。なお、入学当初は多くの学生が大学の研究室への進路を希望していたが、数年を経てアカデミア以外も目指すようになり、学生の意識についても変化が見られることから、本プログラムの将来の成果を把握するためにも、修了者の今後の状況把握は重要であると考ええる。

事業の定着・発展については、本プログラムの成果を基に「獣医学院」と「国際感染症学院」の大学院への発展が実行されており、今後も優秀な人材輩出が期待される。一方で、定着・発展の観点からも、プログラムの趣旨の学生・全関連教員への浸透は必ずしも十分ではなかったところもあり、今後一層の努力が期待される。